

2024年5月7日



『朝礼時法話～報告事項』

(1) 講話概略【「結果」よりも「経験から得た財産」を…】

本日5月7日は、受宣初代苑長の祥月命日で丸27年を迎えます。

今年度から光寿会が歩む目的と位置づけた『生きる意味を発見し合える道場にしよう』という言葉は、長年光寿会理念として掲げてきたものです。これは、受宣初代苑長が掲げた言葉ではありますが、お年寄りであっても、若者であっても、ここにご縁ある人たちの『生きる意味』を発見していくといものです。

先日、光寿苑で入居生活を送って頂くはずだったE.Sさんではありますが、私たちの奮闘実らず、ご家族の強い希望により、ご自宅に戻る形となってしまいました。入居から夢を見ているかのような6日間の出来事。初日は、入居に納得の行かなかった(ご本人の認識とご家族の説明のギャップもあり)Eさんが大声で拒否を訴えたりせわしなく歩く等の興奮状態となってしまい、翌日の未明に至るまで対応に当たってくれた職員もいたり、特に初日に関わってくれた職員には相当な負担を掛けました。改めて、懸命な対応、心よりおかげさまでした。

今年度の職員心得の中に、『「結果」よりも「経験から得た財産」に目を向け、尊べる人に成ります』という言葉が上げられています。今回のEさんのことに当てはめると、「結果」だけでみれば入居生活を継続できなかったということなので、成果をあげられなかった…という見方になってしまいますが、果たしてそれだけなのだろうか？家に帰ることを最終決断したのはご家族でありました。ご家族への説明と理解して頂く事の難しさは確かに課題として残ってしまいました。

それでも、初日こそEさんは大変な状態ではあったものの、全職種一丸となって対応のあり方を考え、5日目には光寿苑で生活していただけそうだとところまでたどり着き、それをご家族に伝えた私たち。きっと安堵して喜んで下さるだろうと想像していましたが、逆にご家族は、もう光寿苑では暮らせない、自分が覚悟を決めて介護して行こうという結論に至っていた。私たちからすれば何が起こったのかと、何とも整理のつかない結果を迎える事となりました。

(思い返せば、初日を過ごしてすぐのご家族との面談。苑長からの説明自体もご家族を悩ませ、最終決断に向かわせてしまった至らない内容だったと反省しております。)

しかしながら、Eさんに目を向けるとどうでしょうか。初日こそ手に負えないと思ってしまうほどの興奮状態はあったものの、そこを根気よく職員が付き添って過ごした成果もあり、2日目からはEさんも徐々に状況を受け止めて話して下さるようになり、その受け入れ始めたEさんに対しても職員が交代しながら丁寧に向き合い続けてくれた。Eさんの状態や性格等を掴み始め、関わり方も徐々に分かってきて。3日目も4日目も5日目も穏やかに笑う時間も生まれてきて。工夫は必要だけれど、光寿苑でEさんが暮らしていけるイメージが持てるようになった。Eさんと光寿苑が『生きる意味を発見し合える』場を、糸口を見つけ出してこれたのだと私は見えています。

ご家族への説明のあり方については、今一度検証していく事は必要ではあります。しかし、ご家族に関わってくれた相談員が丁寧に向き合ってくれたことで、これもまた『経験から得た財産』として、ご家族が与えて下さった成長する課題として取り組んで参りたいと思います。おかげさまでした。

(2) 連絡事項について

- ① 本日、A.Sさんの短期入居です。今、生活課長が迎えに行っています。
- ② 先日の『基本処遇会議』録です。Rさんの見守りと短期入居の居室変更についてです。
- ③ 管理栄養士を迎え、今年度より栄養マネジメント加算をとっていきます。それに伴い、介護や医務にそれぞれご協力頂きたい内容がありますので宜しくお願い致します。【別紙参照】

【講話、①～③＝理事長】